

2024年度

(2024年4月1日～2025年3月31日)

環境経営レポート



(アルミダイカストマシン)



(コイルインサーターマシン)

2025年6月11日

BMテック株式会社

1	表紙	P13-1
2	目次	P13-2
3	事業概要	P13-3
4	環境経営方針	P13-4
5	環境経営目標	P13-5
6	環境経営計画	P13-6
7	環境経営計画に基づき実施した取組内容及び実施体制	P13-7、P13-8
8	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P13-9
9	環境関連法規への違反、訴訟等の有無	
10	代表者による全体の評価と見直し・指示	P13-13

3・事業概要

事業所名

BMテック株式会社

2019年6月3日 会社設立 資本金 1000万円

所在地

〒807-0048 福岡県遠賀郡水巻町吉田南3-5-1

代表取締役社長 菊竹 浩和

環境管理の責任者氏名及び担当者氏名、連絡先

責任者：生産部 部長 山本 清

担当者：生産部 係長 三好 健太

連絡先：TEL (093) 201-9525

FAX (093) 201-2769

E-mail kmiyoshi@bm-tech.co.jp

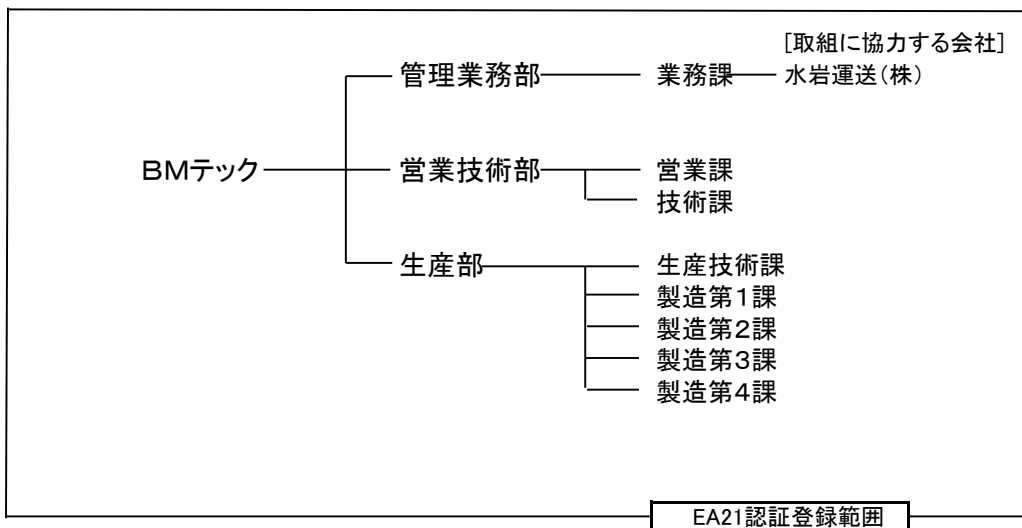
事業の内容

ビルトインモータの開発、製造及び販売

事業の規模

	2022年度	2023年度	2024年度
製造高(百万円)	2,395	2,354	2,350
従業員数(人)	231	230	224
床面積(m ²)	6,869	6,869	6,869

組織体制



4・環境経営方針

BMテック株式会社が社会の中で人と環境を大切にしながら発展していくために、ここに環境経営方針を作成しました。

従業員は下記経営理念のもと、この環境経営方針に従って努力し続けます。

【経営理念】

BMテックは、ビルトインモータ技術を継承し、
信頼される製品と共に社会を動かす駆動源であり続けます。

【行動指針】

- 一. 私たちは、努力を重ね技術の発展に挑戦します。
- 二. 私たちは、お客様のご要望をかなえる製品づくりを追求します。
- 三. 私たちは、全従業員が尊重し合う、働きやすい会社を目指します。

【環境方針】

当事業所は地球環境保全と事業活動の両立を基本理念として、環境負荷の軽減に努めます。

- 1) 当事業所の業務において、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減を推進します。
- 2) 新規開発製品において、モータの効率アップに努めます。
- 3) 製造プロセスにおいて、仕損の削減に努めます。
- 4) 環境目標を設定し、その達成に努め、継続的改善を図ります。
- 5) 関連する環境に関する法規制及び当事業所が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 6) 本環境経営方針は、全従業員に周知し、徹底します。
- 7) 環境経営の継続的改善を誓約します。
- 8) 若手の人材育成を推進します。

制定日 2006/5/16
改定日 2023/4/10

BMテック 株式会社

代表取締役社長 菊竹 浩和

5・環境経営目標

(2024年度)

環境目標		目標実績	単位	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素 排出量の削減	目標	製造高当り (kg-CO ₂ /百万円)		—	256以下 (2023年度から99%)	254以下 (98%)	251以下 (97%)
			(kg-CO ₂ /百万円)	259	—	—	—
	実績	総量(kg-CO ₂)		606,966	—	—	—
燃料主要5項目	電力量	目標	製造高当り (kWh/百万円)	—	492以下 (2023年度から99%)	487以下 (98%)	482以下 (97%)
			(kWh/百万円)	497	—	—	—
		実績	総量(kWh)	1,168,982	—	—	—
	灯油使用量	目標	製造高当り (ℓ/百万円)	—	0.238以下 (2023年度から100%)	0.238以下 (100%)	0.238以下 (100%)
			(ℓ/百万円)	0.238	—	—	—
		実績	総量(ℓ)	560	—	—	—
	液化ガス	目標	製造高当り (kg/百万円)	—	19.9以下 (2023年度から99%)	19.7以下 (98%)	19.5以下 (97%)
			(kg/百万円)	20.1	—	—	—
		実績	総量(kg)	47,253	—	—	—
	ガソリン (自動車用燃料 の削減)	目標	製造高当り (ℓ/百万円)	—	0.184以下 (2023年度から99%)	0.182以下 (98%)	0.180以下 (97%)
			(ℓ/百万円)	0.186	—	—	—
		実績	総量(ℓ)	437	—	—	—
	軽油 (自動車用燃料 の削減)	目標	製造高当り (ℓ/百万円)	—	5.22以下 (2023年度から99%)	5.16以下 (98%)	5.11以下 (97%)
			(ℓ/百万円)	5.27	—	—	—
		実績	総量(ℓ)	12,421	—	—	—
自動車用燃料の 削減	目標	製造高当り (ℓ/百万円)		—	5.41以下 (2023年度から99%)	5.35以下 (98%)	5.30以下 (97%)
			(ℓ/百万円)	5.46	—	—	—
	実績	総量(ℓ)		12,858	—	—	—
廃棄物 排出量の削減	目標	製造高当り (kg/百万円)		—	12.4以下 (2023年度から99%)	12.3以下 (98%)	12.1以下 (97%)
			(kg/百万円)	12.50	—	—	—
	実績	総量(kg)		29,519	—	—	—
水使用量の 削減	目標	従業員一人当り (m ³ /人月)		—	0.593以下 (2023年度から99%)	0.587以下 (98%)	0.581以下 (97%)
			(m ³ /人月)	0.599	—	—	—
	実績	総量(m ³)		1,655	—	—	—
化学物質 使用量の低減	目標	製造高当り (kg/百万円)		—	9.18以下 (2023年度から99%)	9.08以下 (98%)	8.99以下 (97%)
			(kg/百万円)	9.27	—	—	—
	実績	総量(kg)		21,827	—	—	—
自らが生産・販売・提供する 製品の環境性能向上及び サービスの改善	目標	新規設計時全件検討		—	100%	100%	100%
	実績	新規高効率開発及び モデルチェンジ見検件数		42	—	—	—
仕損の削減	目標	仕損金額 (万円/月)		8.0以下	1.2以下	1.1以下	1.0以下
	実績	同上		1.1	—	—	—

【備考】

- 2023年度の実績ベースで2026年度までの目標を設定する。2024.4.22(BM社 菊竹)
- 二酸化炭素排出量の削減において九州電力調整後排出係数を平成28年(2016年)0.483t-CO₂/千kWhから令和元年(2019年)0.370t-CO₂/千kWhに変更。
- 水使用量の削減目標は2023年度の実績値を基準とし2026年までの目標を設定する。2024.4.22(BM社 菊竹)
- 灯油用量の削減目標は2023年度の実績値を基準とし現状維持とする。2024.4.22(BM生 山本)
- 化学物質使用量の低減をPRTR法に該当する物質のみに変更する。2024.10(B産 三好)

6・環境経営計画

(2024年度)

承認	照査	作成
		

[illegible]

7(1)・ 経営環境計画に基づき実施した取組内容

取組み内容

(1) 電気使用量の削減

- ①エアコンの使用温度管理の実施
⇒エアコン使用温度管理の表示と集中管理装置の確認。(継続)
- ②照明の不要時消灯の実施
⇒不要時消灯の表示(継続)
- ③新規購入機器の省エネルギー化の推進
⇒和式水洗トイレを洋式水洗トイレ(節水型)に更新。
- ④空調機フィルターの清掃(継続)
- ⑤エアー漏れの確認と異常時の対応
- ⑥動力電力の適正使用の確認(生産設備、乾燥炉等)
⇒連続乾燥炉の休止日の拡大。
- ⑦液化ガス使用量管理の実施
⇒LPGの点火時間の短縮を拡大。

(1)①エアコン使用温度管理の表示



(1)②照明不要時消灯の表示



(1)④エアコンフィルター清掃の実施記録



(2) 自動車の燃料削減

- ①エコドライブの徹底(継続)
- ②効率的な配車計画の指示と実施の確認
- ③車両の日常点検実施と確認

(3) 焼却廃棄物の削減

- ①ワニス固形物及びワニス付着物等の削減(継続)

(4) 廃棄物排出量削減のための取組み

- ①ダンボール再利用の徹底と確認(継続)
- ②工場内リサイクル品の分別と推進
- ③産業廃棄物の分別の実施と確認

(5) 総排水量削減のための取組み

- ①節水の徹底の実施と確認
⇒自動出水機の設置により出水時間の短縮。
⇒洋式トイレのレバーの電動化でレバー戻り不足の解消。
- ②水道メーターの日々確認を実施

(5)自動出水機の設置



(5)トイレレバーの電動化



(6) 化学物質使用量低減のための取組み

- ①作業方法の見直しによる廃棄ワニス、洗浄剤削減の実施と確認(継続)

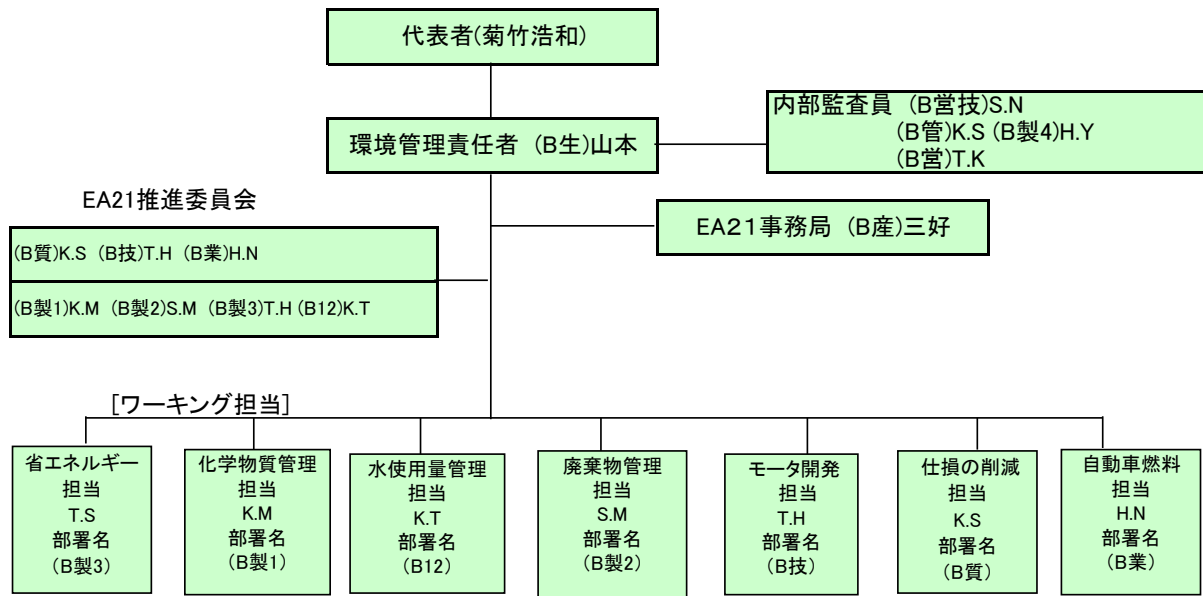
(7) モーターの効率アップのための取組み

- ①新規高効率開発及びモデルチェンジの推進

(8) 仕損の削減のための取組み

- ①仕損再製費の削減
- ②工程内不良統計作成による削減活動
- ③重点工程の品質ミーティング参加

7(2)・環境経営計画に基づき実施した実施体制



【役割分担表】

名称	部署名	氏名	役割・責任・権限
代表者	(B社)	菊竹浩和	全体統括、環境方針の設定、環境への取組みを実施するための資源の準備、全体の評価と見直しを行う。
環境管理責任者 (EA21推進委員会 委員長)	(B生)	山本	環境経営システムを構築し、運用し、その維持管理等の総合的管理を行う。 その状況を水巻事業所長に報告する。
EA21推進委員会	(B製1) (B製2) (B製3) (B業) (B技) (B質) (B12)	K.M S.M T.S H.N T.H K.S K.T	1Q毎開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の遂行状況を審議する。
EA21事務局	(B産)	三好	環境活動の管理統括、環境関連法情報収集、法令順守状況監視 EA21文書及び記録類の作成・維持・管理
省エネルギー 担当	(B製3)	T.S	燃料(車両用を除く)消費量の管理 電力使用量の管理、省エネルギーの企画・推進
廃棄物管理 担当	(B製2) 副(B業)	S.M H.N	廃棄物の廃棄量管理、減量化・リサイクル化の推進 資材購入量管理、マニフェスト管理、車両用軽油消費量管理
水使用量管理 グループ 担当	(B12)	K.T	水使用量の管理、水使用量削減の企画・推進
化学物質管理 担当	(B製1)	K.M	揮発性有機化合物(VOC)の管理、化学物質使用量削減の企画・推進
モータ開発 グループ	(B技)	T.H	PRTR管理、Reach規制対応、高効率モータの開発
仕損の削減 担当	(B質)	K.S	仕損再生費削減の企画・推進
自動車燃料 担当	(B業)	H.N	自動車燃料管理

(2024年度)

		単位	2023年度実績	2024年度目標	2024年度実績 [目標値比]	取組結果
二酸化炭素排出量の削減		製造高当り (kg-CO ₂ /百万円)	259	256以下	259.8 [101.5%]	▲
		総量(kg-CO ₂)	606,966		610,576	
主要 5項目	電力量	製造高当り (kWh/百万円)	497	492以下	493.5 [100.3%]	▲
	灯油使用量	製造高当り (ℓ/百万円)	0.238	0.238以下	0.619 [260%]	×
	液化ガス	製造高当り (kg/百万円)	20.1	19.9以下	20.6 [103.5%]	×
	ガソリン	製造高当り (ℓ/百万円)	0.186	0.184以下	0.102 [55.4%]	●
	軽油使用量	製造高当り (ℓ/百万円)	5.27	5.22以下	5.31 [101.7%]	▲
自動車用燃料の削減		製造高当り (ℓ/百万円)	5.46	5.41以下	5.41 [100%]	●
廃棄物排出量の削減		製造高当り (kg/百万円)	12.5	12.4以下	10.3 [83%]	●
総排水量の削減		従業員一人当り (m ³ /人月)	0.599	0.593以下	0.573 [96.6%]	●
化学物質使用量の低減		製造高当り (kg/百万円)	9.27	9.18以下	8.29 [90.3%]	●
モータの効率アップ		新規設計時全件検討 新規高効率開発及び モデルチェンジ見積件数	100%	100%	100%	●
仕損の削減		仕損金額 (万円/月)	1.1	1.2以下	3.84 [320%]	×
		製造高(百万円)	2,354		2,350	
		従業員(対象人数)	230		224	

目標達成 ●

目標未達成 3%未満 ▲

目標未達成 3%以上 ×

(2024年度)

① 二酸化炭素排出量の削減

目標比101.5%と目標を達成することができず、259.8と前年度とほぼ変わらない数値となりました。
昨年に比べエアコン導入により台数が増えた結果と考えられます。

② 電力量;電力使用量

目標比100.3%と目標に近づけることができました。
エアコン導入台数が増えましたが、生産量を調節して前年に比べワニス連続乾燥炉等の
非稼働日数を積極的に増やしたことで目標に近づけたものと考えられます。

③ 灯油使用量

灯油は冬季暖房用で使用していますが、エアコン稼働台数の増加でデマンドピークが
集中し、今年度対策として灯油ストーブの使用量が増えたことによるものでした。
目標に対して乖離が大きい為、今後も注力が必要な項目です。

④ 液化ガス使用量

液化ガスは、給湯用及び5機のアルミダイカスト溶解炉用に使用している。
溶解炉の点火時間の短縮も行っていますが、目標比103.5%、前年度比102.5%と増加しました。
6月にLPGのタンクを交換実施。その月購入量が多いのでタンクの残量の影響も考えられます。

⑤ ガソリン使用量

社用車とトラック使用にて使用している。今年度目標比55.4%と目標達成しました。
トラック1台が途中でガソリン車から軽油車に変更になった為です。

⑥ 軽油使用量

車両使用のみに使用で目標比101.7%と目標達成することができませんでした。
トラック1台が途中でガソリン車から軽油車に変更になった為と考えられます。

⑦ 自動車用燃料の削減(ガソリン、軽油)

効率的な配車と削減活動を行いメイン製品の持ち込み場所が近くなったため
今年度目標の5.41に対し5.41となり目標達成となりました。

⑧ 廃棄物排出量の削減

目標比83%と目標を達成することができました。
木箱廃棄量が減った影響と考えられます。

⑨ 総排水量の削減

目標比96.6%と目標を達成することができました。
自動出水機導入や洋式トイレのレバー電動化により、蛇口やレバーの戻し不足が
解消されたと考えられます。

⑩ 化学物質使用量低減

目標比90.3%と目標を達成することができました。

⑪ モーターの効率アップ

2024年度新規高効率開発品及びモデルチェンジ機種において見積件数4件でした。
自然冷媒モーターの出荷台数は164台でした。

⑫ 仕損の削減

目標の1.2万円/月に対し3.8万円/月となり、目標未達成となりました。

※昨年度と製造高は変わりませんが、横ばいもしくは減少傾向となっている項目が多かった。

灯油やLPG、仕損費が目標を超えてしまっているので探求する必要がある。

8(3)・次年度の環境経営目標

(2025年度)

環境目標		目標実績	単位	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素 排出量の削減	目標	製造高当り (kg-CO ₂ /百万円)		—	256以下 (2023年度から99%)	254以下 (98%)	251以下 (97%)
			(kg-CO ₂ /百万円)	259	—	—	—
	実績	総量(kg-CO ₂)		606,966	—	—	—
燃料主要5項目	電力量	目標	製造高当り (kWh/百万円)	—	492以下 (2023年度から99%)	487以下 (98%)	482以下 (97%)
			(kWh/百万円)	497	—	—	—
		実績	総量(kWh)	1,168,982	—	—	—
	灯油使用量	目標	製造高当り (ℓ/百万円)	—	0.238以下 (2023年度から100%)	0.238以下 (100%)	0.238以下 (100%)
			(ℓ/百万円)	0.238	—	—	—
		実績	総量(ℓ)	560	—	—	—
	液化ガス	目標	製造高当り (kg/百万円)	—	19.9以下 (2023年度から99%)	19.7以下 (98%)	19.5以下 (97%)
			(kg/百万円)	20.1	—	—	—
		実績	総量(kg)	47,253	—	—	—
	ガソリン (自動車用燃料 の削減)	目標	製造高当り (ℓ/百万円)	—	0.184以下 (2023年度から99%)	0.182以下 (98%)	0.180以下 (97%)
			(ℓ/百万円)	0.186	—	—	—
		実績	総量(ℓ)	437	—	—	—
	軽油 (自動車用燃料 の削減)	目標	製造高当り (ℓ/百万円)	—	5.22以下 (2023年度から99%)	5.16以下 (98%)	5.11以下 (97%)
			(ℓ/百万円)	5.27	—	—	—
		実績	総量(ℓ)	12,421	—	—	—
自動車用燃料の 削減	目標	製造高当り (ℓ/百万円)		—	5.41以下 (2023年度から99%)	5.35以下 (98%)	5.30以下 (97%)
			(ℓ/百万円)	5.46	—	—	—
	実績	総量(ℓ)		12,858	—	—	—
廃棄物 排出量の削減	目標	製造高当り (kg/百万円)		—	12.4以下 (2023年度から99%)	12.3以下 (98%)	12.1以下 (97%)
			(kg/百万円)	12.50	—	—	—
	実績	総量(kg)		29,489	—	—	—
水使用量の 削減	目標	従業員一人当り (m ³ /人月)		—	0.593以下 (2023年度から99%)	0.587以下 (98%)	0.581以下 (97%)
			(m ³ /人月)	0.599	—	—	—
	実績	総量(m ³)		1,655	—	—	—
化学物質 使用量の低減	目標	製造高当り (kg/百万円)		—	9.18以下 <2> (2023年度から99%)	9.08以下 <2> (98%)	8.99以下 <2> (97%)
			(kg/百万円)	9.27 <2>	—	—	—
	実績	総量(kg)		21,838 <2>	—	—	—
自らが生産・販売・提供する 製品の環境性能向上及び サービスの改善	目標	新規設計時全件検討		—	100%	100%	100%
	実績	新規高効率開発及び モデルチェンジ見稿件数		42	—	—	—
仕損の削減	目標	仕損金額 (万円/月)		8.0以下	1.2以下	1.1以下	1.0以下
	実績	同上		1.1	—	—	—

【備考】

- 2023年度の実績ベースで2026年度までの目標を設定する。2024.4.22(BM社 菊竹)
- 二酸化炭素排出量の削減において九州電力調整後排出係数を平成28年(2016年)0.483t-CO₂/千kWhから令和元年(2019年)0.370t-CO₂/千kWhに変更。
- 水使用量の削減目標は2023年度の実績値を基準とし2026年までの目標を設定する。2024.4.22(BM社 菊竹)
- 灯油用量の削減目標は2023年度の実績値を基準とし現状維持とする。2024.4.22(BM生 山本)
- <2>化学物質使用量の低減をPRTR法に該当する物質のみに変更する。2024.10(B産 三好)

8(4)・次年度の環境経営計画

(2025年度)

承認	照査	作成
		

[illegible]

9・ 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等などの有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果

違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

法律名称	遵守状況
1.騒音規制法 振動規制法	問題なし 問題なし
2.浄化槽法	問題なし
3.廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃掃法/廃棄物処理法)	問題なし
4.特定化学物質の環境への排出量の把握等及び 管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	問題なし
5.労働安全衛生法 (安衛法)	問題なし
6.消防法	問題なし
7.工場立地法	問題なし
8.大気汚染防止法	問題なし
9.毒物及び劇物取締り法	問題なし
10.水質汚濁法	問題なし
11.改正フロン法	問題なし

10・ 代表者による全体の評価と見直し・指示

- ① 日々、従業員には環境目標達成の為に節電、節水、ゴミの削減等、表示を明確にしてエコ活動に取り組む様にWGからの指導等を行うことで全社で活動も実行出来ています。
新規雇用時には、新人教育の中でEA21教育も実施しています。
- ② 全体的にエコ活動の取組み、決められたルールに基づいた行動は定着化しています。
2024年度は昨年とほぼ同様の生産高でしたが、二酸化炭素排出量、電力使用量は横ばいで廃棄物や化学物質使用量は目標をクリアすることが出来ました。

環境目標を明確に設定し、達成度の評価をクォーター毎に行い、
対策の検討と実施を行った結果、12項目のうち2項目が目標より乖離が大きい結果となり
今後も注力して原因を追究する必要があります。

- ③ 継続的な改善が行なわれているので、環境方針
その他の環境システムの要素変更は不要と判断します。